

核兵器の廃絶・核戦争阻止・被爆者支援の運動を、あなたもごいっしょに

# 佐賀県原水協ニュース

2016年1月27日発行 佐賀県原水協事務局作成 第97号  
事務局電話0952-31-7711 FAX0952-31-7713 (佐高教組内)  
<http://www7b.biglobe.ne.jp/~gensuikyosaga/>

## 『核兵器の削減に向けた政府と市民の努力を』

### 九州沖縄ブロック原水協学校 in 長崎

九州・沖縄ブロック原水協学校が1月23日(土)・24日(日)の両日、長崎市内でおこなわれ、100名(佐賀より4名)が参加しました。初日は2つの講演による情勢学習と交流会、翌日が各県活動交流では佐賀空港オスプレイ配備問題と共同行動について報告をしました。

長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)センター長の鈴木達治郎さんより、昨年11月に長崎市でおこなわれた第61回パグウォッシュ会議の報告を受けました。パグウォッシュ会議は、核兵器や大量破壊兵器と戦争の根絶を究極の目的とし、科学者の社会的責任を追及して、対立を超えた対話の場を作ってきました。政府に対して実現可能な政策提言をおこなっています。鈴木さんは、世界の核兵器保有量は減少しているがそのスピードが遅く、高性能化している現状に警鐘をならしました。2015年NPT(核不拡散)再検討会議は最終合意に失敗し、会議の限界性もあるが、削減に向けた政府と市民の努力は欠かせず、その中でも核の傘の下にある非核保有国の役割は重要だと述べ、非核化に向けた民間外交の必要性を強調しました。

日本原水協代表理事の高草木博さんの講演では、核兵器の人的影響をめぐって、核兵器廃絶の流れが勢いを増しているなかで、被爆者とともに歩む原水爆禁止運動の役割に期待が寄せられていることや、日本がアメリカの武力行使に加わり、アメリカの核政策によって守ってもらおうという安倍政権の政策の危険性を指摘しました。その上で、被爆体験の継承や原爆展の開催を各地で取り組み、立憲主義と戦争法廃止、憲法を守る運動などと結び付け、日本を変えるための役割を原水爆禁止運動ならではの役割を發揮しようと呼びかけました。

二日目は各県活動交流で、佐賀からオスプレイ配備問題と原水協活動の報告をしました。有意義な経験交流ができましたが、折からの暴風雪で長崎市内は歴史的な積雪となり交通はマヒ状態。月曜日の電車再開は夕方6時。改札口前は長蛇の列。二人は火曜日まで長崎市内に滞在を余儀なくされ、記憶と記録にのこる学習会となりました。



二日目の分科会の様子



24日の早朝、撮影しました